

新しい年に願いをこめて

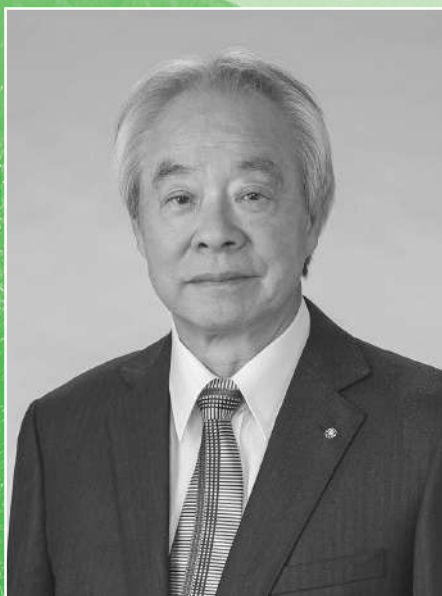
自然を愛し、
人にやさしいまち



広報 おげと

KETO

2020.1 no.848



笑顔と夢があふれる まちづくりをめざして

置戸町長 井上 久男

新年、明けましておめでとうございます。

皆さまにおかれましては、健やかな新春をお迎えのこととお慶び申し上げます。

また、日頃より町政の推進に格段のご理解とご協力を賜り、厚く御礼申し上げます。

昨年は、平成から令和へと時代の終わりと始まりが交錯した年でした。また、平成26年に続いて消費税が増税され、国内景気や消費者への深刻な影響が懸念されます。

本町におきましても、安定かつ高いレベルでの衛生的な給水を目指し、平成24年度から実施してきました簡易水道統合事業が完了します。引き続き、生活に直結するライフラインの維持に取り組んでまいります。

近年、想像を絶する自然災害が全国で相次ぎ発生しておりますが、昨年10月に発生した台風19号においては、関東地方や甲信地方、東北地方で記録的な大雨となり、河川の氾濫による浸水や土砂災害などで甚大な被害が発生しました。刻々と報道される被害状況を見て、鹿ノ子ダムや常呂川を有する本町にとりましても決して他人事ではなく、自然災害に速やかに対応できる体制づくりが極めて重要であると痛感させられました。

地域や自治会単位で自主防災組織が結成され、それぞれにおいて共助活動が行われることは大変心強く、町民の皆さまと共に安心して暮らせる防災体制の強化に努めてまいります。

さて、令和2年度は町制施行70周年の節目の年となりますが、第6次置戸町総合計画がスタートする年でもあり、2年をかけて皆さんと共に知恵を出し合い策定してまいりました。同時にスタートする第2期置戸町まち・ひと・しごと創生総合戦略ともつながりをもたせる計画となっています。

人口減少と少子高齢化が進み、多くの課題を抱えておりますが、10年後の将来像「笑顔と夢を未来につなぐまち」を目指し、生涯を健やかで生き生きと笑顔で暮らせるまちづくりを、町民の皆さまと共に着実に取り組んでまいります。

結びとなりますが、昨年10月に北見市を中心市として、本町のほか、美幌町、津別町、訓子府町の1市4町で「北見地域定住自立圏」を形成しました。これから、様々な政策分野において、相互に役割分担し連携協力して取り組んでいくことになります。同時期に開催されていたラグビーワールドカップ2019日本大会に出場し、快挙を成し遂げた日本代表チームのように、しっかりとスクラムを組み、「ONE TEAM」で圏域の発展に尽くしてまいりますので、皆さまの格別なるご理解とご協力をお願い申し上げます。

町民の皆さまにとりまして、健康で幸多き年となりますことを心からご祈念申し上げ、年頭のご挨拶といたします。

人口減少問題に 正面から向き合うまちづくりを

置戸町議会議長 岩藤 孝一



明けましておめでとうございます。

年頭にあたり、謹んで新春のご挨拶を申し上げます。皆様におかれましては、新元号「令和」のもと、希望に満ちた輝かしい新年を迎えられたことと、心からお慶び申し上げます。

また、日頃より町政の発展と議会運営に対して多くのご支援とご協力を頂いていますこと、深く感謝を申し上げます。

昨年、4月、12年ぶりの町議会選挙を経て8名の議会構成での議会となりました。新米議長として新しい年を迎え、その責任の重さを改めて感じると共に、置戸町のさらなる発展のために引き続き努力してまいりたいと決意を新たにしているところでございます。

さて、昨年を振り返りますと、全国的に多発した自然災害、とりわけ台風15号から毎週のように襲来する未曾有の台風による暴風被害はもとより、河川の氾濫、洪水など、大きな災害が日本各地で頻繁に発生しました。この災害により尊い命を失われた方々に対し、心よりご冥福をお祈り申し上げますと共に、被害にあわれた方々にお見舞い申し上げます次第です。

町内では、自主防災組織の結成、そして防災に対しての意識付けが広がりをみせています。しかし、予想出来ない大きな災害に、対応の満点はあるはずもなく、自助、共助、公助の意識が大切だと思われます。加えて、今後も日本全体が協力して支援や災害対策事業を促進していく必要性を強く感じているところでもあります。

昨年は、少子高齢化に対応すべく公民館前に児童遊園地「あそびーば」が完成しました。楽しく遊ぶ子ども達の歓声には心とします。また、NPO法人「くらしサポートたちつと」が運営する「キッチン木の実」の来店者が2万人を達成しました。スタッフの方々はもちろんのこと、それらを支えるボランティアの方々のご労苦に敬意を表したいと存じます。道内唯一の福祉科高校を持つ我が町にとって「福祉」という意味での「まちづくり」に、大きく寄与していることと思います。本町の社会教育を支える図書館では、利用者30万人達成の嬉しい話題もありました。まさに新元号「令和」の持つ意味合い「人々が美しく心を寄せ合う中で文化が生まれ育つ」に相応しい一年であったと思います。

現在、来年度より施行する第6次置戸町総合計画策定の最終段階となっています。待った無しの少子高齢化、人口減少…そのような中での今後の10年間の計画であります。10年間だけではなく、その後の未来を見据えた置戸らしい計画であって欲しいと願っています。議会では、計画の将来像を十分に満たしているかなど、町民の皆様と心を寄せ合い、代表機関として監視し、適宜、提案していきたくと考えておりますので一層のご理解ご協力をお願い申し上げます。

結びにあたり、新しい年が活力にあふれ、町民の皆様が笑顔で暮らせる素晴らしい年になりますよう心よりご祈念申し上げ、新年のご挨拶といたします。

2020年 年男、 年女が語る。



新春恒例企画コーナー、
子年生まれの5人の方々に、
インタビュー！

日々の生活、今年の抱負、
これからの置戸町のまちづ
くりなどをテーマに語って
いただきました。

本年が皆さまにとって良
い年になりますように。

●大正13年生まれ
須藤 すどう
ナツ子さん
(養護老人ホーム常楽園)



「農家だから働くのは当たり前。
昔はみんなが大変で、苦労して
いました」と穏やかに話す須藤
さん。今とは違い、当時の農作
業は、全てが手作業。馬を操り、
水田の代掻きを行ったこと、冬
の俵編み作業や手しぼりだった
牛の搾乳作業など当時のことを
振り返り、語りました。「戦時中
は兵隊にとられた兄の代わりに

家のことをしていたので、学校
も休みがち。結婚した後は、子
どもの面倒も見ることがなかつた
けれど、お姑さんがいい人で、
面倒を見てもらいました」

現在の暮らしは？と聞くと
「最高の幸せです。みなさん優し
く、お友達になってもらってい
ます。感謝しています」と笑顔
を見せてくれました。

●昭和23年生まれ
大矢 おおや
孝男さん
(境野)



「気づいたら郷土史研究会の会
長を10年。郷土資料館も老朽化
してきているから、建物をしっ
かり作ってほしいね」と話す大
矢さん。昭和62年から町郷土資
料館協議会委員と郷土史研究会
会員として、32年にわたり資料
の保護などに携わってきました。
昨年の11月には、長年、文化
財の保護に尽力したとして日本

善行会善行表彰を受賞しました。
現在、同研究会では、新規会員
を常時募集中とのこと。「郷土史
に興味がある方、資料を見たこ
とがない方もぜひ一度、開館期
間は年に1回でも見に来てほし
い」と呼びかけています。

写真：12月1日に北見市内で開催され
た善行表彰者合同祝賀会の様子

●平成8年生まれ
(林友) **林崎** はやしぎ
愛美 まなみ
さん



昨年の4月、新卒で置戸町に赴任してきた林崎さん。栄養士として子どもたちの学校給食と食育指導を担っています。「今年は本当にバタバタと目まぐるしく過ぎていった1年でした」

そんな林崎さんに置戸の印象を伺うと「置戸は、子どもたち一人ひとりに目が届き、『どうだった?』って聞ける距離にいたるところがいいですね。給食では、地元の野菜を食べて欲しい。また、いろいろな味・食の経験をしてほしいと思っています。そのため、メニューもいろいろと考え、工夫しています」

今年の抱負は?と聞くと「去年は仕事一本だったので、今年は仕事以外のことにも視野を広げていきたい」とはつらつとした笑顔で応えてくれました。

理容店バーバーショップトムズを営む石井さん。2018年3月にオープンした当初は、顔や名前を覚えるのに苦労したそうですが、現在では人間ばん馬大会や町内ミニバレー大会に出場するなどつながりができたそうです。

これからのまちづくりについて伺うと「置戸は自然が近くにいっぱいあり、キャンプやラフティングなどを観光にいかしてほしい。町外から来ている人の方が、このまちに魅力を感じているように思います。また、ついでに寄れるところがあるといいですね」

今年の抱負は?と聞くと「笑顔で仕事をこなしていきたい。人間ばん馬大会は、決勝進出!」と目標を定め、爽やかな笑顔で応えてくれました。

●昭和59年生まれ
(宮下) **石井** いしい
智己 ともみ
さん



●昭和47年生まれ
(若木) **津志田** つしだ
好美 よしみ
さん



町内の信用金庫にお勤めで、昨年の4月から家族で置戸町へ転入しました。

「自分を守るためにも地域を守ることが大切。人口減少は全国どこも同じです。まちにどれだけの収益を創り出せるのか、皆さんと考え、外に発信していきたい」と語る津志田さん。

地域の活性化について伺うと「置戸がどこにあるのか、eスポーツなどのイベントを通じて、若者にもまずは知ってもらうことが大切。地元の人は遠慮しがちですが、おいしいものや資源、福祉など良いものはもっと宣伝しましょう」

今年の抱負は?と聞くと「良いものをのばし、まちを活性化させるお手伝いをしていきたい」と熱く語ってくれました。

おけとのおどう物語

まちの特産品として活用されてきた
おけとオリジナルワイン。ワイン誕生
の歴史とぶどう畑の今と未来への想い
をお伝えします。

～まちの特産品が誕生した背景～

昭和55年、社会教育活動に力を入れていた町は、暮らしの中に木の文化を取り入れ、生産教育を通して地域の暮らしや文化、人づくり、地域資源を活用した新しい産業を興す取り組みを総合的に行うまちづくりの展開を進めました。

このような考え方をベースに一村一品運動がそれらを推し進め、昭和58年に「オケクラフト」が生み出されました。白い器オケクラフトに盛りつけられる料理の研究や料理に合う飲み物として「白花豆焼酎おけと」、山ぶどうワイン「炎の里おけと」といった新しい置戸町の特産品が誕生したのです。

同時期の農業では、新しい作物の開発が始まりました。メロンやヤーコン栽培が手がけられ、ぶどう栽培のほか温泉熱利用ハウスによるバラやカーネーション栽培など新しい試みが手探りの中、進められました。

～当時のぶどう園植栽状況～

平成6年度の事務報告によると、マスカットハンブルクアムレンシス（以下、MHAM）、山ぶどうなど27品種を栽培し、収穫量は合計1,499kgでした。収穫量はその後順調に増加し、平成11年度の収穫量は14,808kgとなりましたが、翌年の18,182kgを最大として、年々減少傾向が続きました。このような現状にぶどう栽培の存続や試験圃場（以下、ぶどう園）としての方向性を疑問視する声が町内から上がりました。

～現在のぶどう園の取り組み～

収穫量が減少傾向になり、存続が危ぶまれたぶどう園。町では、オケクラフトとともに町の特産品であるおけとオリジナルワインをなくしてはならないと、平成29年度より圃場の土壌改良のほか、当時、北海道ワイン株式会社の製造統括顧問の古川準三さんに栽培方法の技術指導

を依頼。古川さんの指導の下、栽培本数を増やし、収穫量の増加を図っています。

現在、栽培されているぶどうは、白ワイン醸造用のジーガレーベが735株、赤ワイン醸造用のMHAMが944本、山ぶどうが133本。うちジーガレーベやMHAMの過半数は定植して2～3年の若い木のため、収穫は見込めません。このほか寒さに強く収穫量の見込める品種を増やすために、購入したMHAMや譲り受けた山ぶどうの苗木を植栽。さらにキャンベル、ポートランドの穂木をふれあい農園（勝山）で育成し、2年後に苗木としてぶどう園に定植し栽培していく計画です。

～幻の品種ジーガレーベへの挑戦～

国内のジーガレーベは、現在ほとんどのぶどう農家が栽培を辞めてしまったデリケートで気難しい品種です。MHAMと比較すると寒さに弱く、木は細く、実も小振りなため、現在圃場にあるぶどうの中で最も手間がかかる品種です。収穫時期になると、ジーガレーベ特有のさわやかでフルーティーな香りが圃場を包み込みます。香りに誘われた害虫や害獣が一斉に実を狙ってくるため、収穫時期になると害虫・害獣対策が最大の課題。一日たりとも油断できません。

置戸町では、困難の多いジーガレーベの栽培を今でも続けています。その理由を、ぶどう園担当の役場産業振興課農業振興係の上野翼さんにお聞きしました。

「ジーガレーベの収穫は困難とわかっていましたが、先進地の圃場を視察し、置戸町オリジナルの越冬方法を開発する



など収量増の取り組みを続けた結果、少しずつ収穫量は増えてきています。数年ぶりに良質な穂木も採ることができました。『どうしてこんなに難しいぶどうを育てるの?』と思われるかもしれませんが、ジーガレーベは、国内ではほとんど栽培されなくなった幻の品種といっても過言ではありません。置戸で30年以上紡いできたぶどうの歴史を背景に、厳しい気候の下でも幻の特別なワインを造るため、担当者一同、日々奮闘しています」

ぶどう栽培・ワイン製造販売の歴史

- ・昭和60年 町内に自生する山ぶどうを作物化し、ワインの原材料を確保するため、川南の森林組合敷地内で人工栽培試験を開始。
- ・昭和61年 北大工学部と北海道開発技術センターの技術協力により、凍害回避のため防寒資材38種による調査開始。開町70周年記念事業として自生する山ぶどうから醸造した「炎の里おけと」2,900本を限定販売。7月より町内小売店で販売開始。
- ・昭和62年 置戸地域資源開発試験圃場）として豊住地区の圃場500㎡を譲り受け、醸造用ぶどう22品種による適性試験を開始。合わせて、ラズベリーなど小果樹の苗木3品種を育苗。
- ・平成元年 生食用ぶどう7品種の穂木を譲り受け、翌年、挿し木を定植。
- ・平成2年 北海道ワイン株式会社で、醸造適性試験を開始。
- ・平成3年 品種適性検討試験を開始。
- ・平成4年 小果樹試験圃に5品種の苗を定植。ラズベリージャム製品化。
- ・平成5年 北海道立中央農業試験場に22品種の現地適応性試験を受託し、今後、町で栽培する品種の選定や栽培方法を検討。
- ・平成7年 開町80周年記念事業として「おけとワイン（赤・白）」全戸配布、販売開始。
- ・平成12年 平成10年から12年にかけて、収穫量が増加。白ワイン醸造用ジーガレーベ種で醸造された「おけとジーガレーベ」販売。
※参考：製造本数：平成11年度産1,200本、平成12年度産1,752本、平成13年度産440本
- ・平成31年 ワインの表示ルール改正により「炎の里 山ぶどう」、「炎の里（赤ワイン・白ワイン）」に名称変更。

～ぶどう園の一年～

ぶどう栽培ってどんなことをするのでしょうか？広報では意外と知られていない、春から秋までのぶどう園の日々取材しました。

春（5月頃）

ぶどうが収穫できる年数は一般的には20年といわれていますが、ほかの地域と比べて置戸町のような寒さの厳しい気候では、ぶどうの木そのものの生育が遅く、さらに凍害がぶどうの寿命を縮める大きな要因となっています。これまでの経験から、置戸町では苗木を定植後、ぶどうは4～5年で実を結びはじめ、品種により異なりますが、約10年間一定の収穫が見込めるといわれています。凍害を防ぐため、冬を迎える前には必ず冬囲いを行います。長い冬を終え、ぶどう園の春は、冬囲いをはずす作業から始まります。

ぶどうの栽培は手作業がほとんど。苗木の植栽は1本ずつ手作業で行います。また、ウサギや鹿は若芽が大好物。食べられてしまわないように畑の周囲にネットをかけ、さらに、若い木1本ずつにもネットをかけて大切に育てます。



◀若木にかけられたウサギよけネット

▼MHAMの苗木を1本ずつ手作業で定植



近年のワイナリー・ワインブームにより良質な苗木が不足しています。このため、町では良質なぶどうを栽培している農家さんから枝を譲り受けて「自分たちの力で苗木を作ろう」と古川さんの指導を受けて挑戦しています。

今年は勝山のふれあい農園の一角に、譲り受けたキャンベルとポートランドの挿し木を植栽しました。挿し木は秋まで生育した後、畑から抜き取

り、のびた枝と根を剪定した後、土中に埋めて越冬させます。翌年、掘り起し同様の作業を行います。そして、3年目にようやく苗木として圃場に植栽することができます。

夏（6～8月頃）

冬の寒さを乗り越えたぶどうたち。日の光を浴びて、ツルをのばし、葉を茂らせて、すくすくと育ちます。この時期の生長が、その年の収穫量を決定させるほど重要です。湿度が多ければ、カビがつき病気になってしまいますし、大雨にあたると実が割れてしまうこともあります。圃場の適正な水分調整を考えながら草刈りや防除などを行い、ぶどうが生育しやすい環境を保ちます。苗木は余分なツルやわき芽を取り除き、生育を促します。成木は、枝や実の状況をチェックします。

実に色が付き始めると、鳥や虫が甘いにおいに誘われてやってきます。対策を図り、食害を防がなければなりません。秋の収穫を目指して、作業員さんは日々の管理を欠かしません。



ぶどう栽培&ワイン醸造技術管理士

古川 準三さん に聞く



秋、そして冬へ（9月～10月頃）

品種によって収穫時期は異なり、ジーガレーベは9月に8kgを収穫。現在、収穫しているぶどうは平成25年度から27年度に定植したものです。少しずつ苗木が育ち、徐々に収穫できるようになってきているそうです。

いよいよMHAMと山ぶどうの収穫時期。ひと房ずつ手作業で収穫します。MHAMは129kg、山ぶどうは88kgを収穫しました。



MHAMの収穫作業

収穫後は、越冬の準備に入ります。越冬の準備として、樹体に傷があるものには、傷の拡大を防ぐ効果のあるペースト状の薬剤を塗布し、凍害がでないように処置します。来年に向けて土壌には堆肥をまきます。

剪定作業では、木に負担をかけないように、なおかつ収穫量が増えるように状態を見ながら行います。今後、どの枝を残していくのか見極めが難しく、重要な作業です。

冬囲いは、防寒資材でぶどう全体を覆い、土をかけて埋めていきます。土の上に雪が積もり、寒さを防いでくれます。雪も凍害を防いでくれる重要な条件のひとつです。



冬囲いの作業

ふれあい農園で生育中の挿し木も冬囲いを行います。掘り出した挿し木は、良質なやわらかい土のおかげでよく育った枝や根を一定に切りそろえ、束にして土に埋めます。

土の中、防寒資材と雪の布団に包まれて、ブドウは春まで眠りにつきます。



■ぶどう園について詳しくは産業振興課農業振興係までお問い合わせください（☎52-3313）

長年、ワイン醸造用ぶどう栽培に携わってきた古川さん。昨年9月にオホーツク管内初のワイナリーを立ち上げた北見市端野町にある株式会社未来ファームなど、道内各地で技術指導を行っています。ぶどう栽培のプロの眼からみた置戸のぶどう栽培やワインについてのお話を伺いました。

○ぶどう栽培は基礎が大事

ぶどうは一般的な農作物とは違い、1年で収穫できるものではなく、少なくとも2～3年は収入がありません。とれだしてからの管理も大切。ぶどうの栽培は基礎が大事なのです。

○オホーツクをワインロードに

オホーツクや十勝の風土に合う寒さに強い品種や凍害を防ぐことが大切です。道内のブドウ栽培は日本海側が中心ですが、オホーツク管内全体で盛り上げていただき、網走から置戸までをワインロードにできたらと思います。レストランやワイナリー、圃場で農業体験、醸造体験など、観光に結びつけてほしいと思っています。

私の仕事は、置戸町のぶどう園を次の世代に引き継ぐための基礎作りです。ぶどう栽培を若い人の力で引き継いでほしい。そして、地元の農業、オケクラフト、そしてワインで、ふるさとを活性化してほしいと思っています。



置戸町表彰式

第54回置戸町表彰式が2月16日に中央公民館で開催されます。
令和元年度の表彰者として受賞される方々の功績と栄誉を称え、
お名前と業績をご紹介します。

功労表彰

消防功労 佐藤 幸一氏（72歳 北光第二）

昭和56年に置戸消防団に入団して以来、38年にわたり勤続し、平成27年には副団長として置戸町の防災に深く携わり多大な貢献をされました。

自治功労 佐藤 純一氏（71歳 勝山公新）

平成11年に置戸町議会議員に初当選し、以来5期20年間、町政に参画し、平成23年からは議長として2期8年間にわたり重責を担われ、地方自治の発展に貢献されました。

消防功労 木村 茂廣氏（69歳 境野中央）

昭和46年に置戸消防団に入団して以来、48年にわたり勤続し、平成15年からは副団長、平成27年には団長として、置戸町の防災に深く携わり多大な貢献をされました。

社会貢献表彰

小林 勝氏（新ひだか町）

置戸出身の画家として、海外で様々な賞を受けられ活躍しており、この度パリに愛されるジャパンアーティストとして「フランス芸術文化大賞」を受賞され、芸術文化の振興に貢献されております。

社会貢献表彰（白寿）

安藤 アイ氏	野里 ミヨ氏
樋渡 美代子氏	今野 アイ氏
内田 實氏	

社会貢献表彰（90歳 50年以上在住）

近田 三郎氏	菅野 吉太郎氏
森 喜代美氏	森 テイ子氏
大和田 節子氏	小建 留雄氏
河野 直枝氏	今田 マサ氏
小山 ヨシエ氏	小木 スミ氏

大高 米子氏	森野 榮子氏
狩野 笑子氏	森谷 敏雄氏
伊東 ミヨ氏	山本 千代氏
上石 秋生氏	石川 ミヤ子氏
飯田 秀雄氏	武智 トミ氏
西東 美代子氏	中井 哲子氏
木村 幸得氏	鈴木 美佐子氏
山田 健一氏	

善行表彰（寄附）

鈴木 トシ子氏（心和）
百瀬 久勝氏（勝山公新）
佐藤 純一氏（勝山公新）

勤続表彰

■議会議員

佐藤 純一氏（勝山公新 20年）

■選挙管理委員会委員

須藤 久義氏（豊住 20年）
山本 千鶴子氏（本町 20年）

■交通安全指導員

森谷 雅樹氏（豊住 20年）

■消防団員

細川 昭夫氏（新光 50年）
中原 浩幸氏（境野親交 20年）
小野垣 裕樹氏（林友 20年）

■公民館運営審議会委員

大友 亮一氏（本町 20年）

表彰状の伝達

大矢 孝男氏（境野）

文化財の保護や継承を行う人材が減少する中、永きにわたり郷土資料の保護や環境整備活動等に尽力され、置戸町における文化財愛護活動の中心的な活動姿勢に対し、日本善行会善行表彰を受賞されました。

※掲載は年齢・年数順及び寄附の受納日順

北海道日本ハムファイターズ2020年北海道179市町村応援大使が置戸町に決定

11月24日に行われたファイターズファンフェスティバル2019において、「北海道179市町村応援大使2020抽選会」が開催され、2020年の18市町村のまちの応援大使を務める39選手が決定しました。

置戸町の応援大使は、中田翔選手（背番号6、右投げ／右打ち、1989年生まれ、広島県出身）と清水優心選手（背番号10、右投げ／右打ち、1996年生まれ、山口県出身）の2人です。

12月23日には、北海道日本ハムファイターズより担当職員が表敬訪問し、直筆のサイン入りユニフォームなどが寄贈されました。寄贈された記念品は中央公民館内に展示予定です。



11月24日、ファイターズファンフェスティバル2019抽選会にて 中田翔選手と高橋叶人くん



いつもご愛読いただいております皆さんへ

応募された方にオケクラフトをプレゼントします。応募者多数の場合は抽選となります。結果は景品の発送をもってかえさせていただきます。

【応募方法】

郵便ハガキ（またはFAX、Eメール）に次の問いにお答えください。

- ①「広報おけと」で取り上げてほしい内容、知りたい情報などがありますか？
- ②「広報おけと」記事へのご意見・ご感想について
- ③置戸町ホームページは見たことがありますか？見たことがある場合、どの程度見ていますか？（例：週2回程度、月1回など）
- ④置戸町ホームページで載せてほしい情報や知りたい情報などがありますか？

以上を記入して、郵便番号・住所・氏名を明記の上、令和2年1月20日（消印有効）までお送りください。【宛先】〒099-1100 置戸町字置戸181番地 置戸町役場まちづくり推進室地域情報係、FAX52-3353、メールアドレスjoho@town.oketo.hokkaido.jp

編集後記

☆謹賀新年。特集記事では、知らなかった知識・まちの歴史を知ることができ、私自身大いに勉強になっています。最近の愛読書は、置戸町史や証言集。当時の様子や人々のさまざまな想いが伝わり、ついつい読みふけてしまいます…。☆4月から広報紙がリニューアルし、10か月。今年はホームページのリニューアルを検討中です。紙面もWEBもご意見・ご感想をお待ちしています。置戸町PRポスターも制作中です。今年も皆さんに読んでいただける広報紙を目指して励みます。 (株)



おけとのぶどう

表紙 (表) 鹿の子沢 (糸ひき滝)
(裏) ぶどう園の風景
(ヤマブドウ、緑肥のヒマワリ、
ジューザレーベ、アムレンシス
マスハン)

発行 置戸町
<http://www.town.oketo.hokkaido.jp>
印刷 有限会社サンコー社

